

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
ブラチナカップ	2019/7/25	SIII	浦和	1400m	ハイペース	良	コース適性

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	トキノエクセレント	牡11	58	櫻井	アツミラーレ	サンデー系	ブライアンズタイム	ロベルト系	C	C	A	B	B	A	○	
2	2	キタサンミカツキ	牡9	58	森	キングヘイロー	ノーザン系	サクラバクシンオー	ナスルーラ系	A	A	B	B	A	B	◎	
3	3	ノブワイルド	牡7	58	橋本	ヴァーミリアン	ミスプロ系	アンバーシャダイ	ノーザン系	A	C	A	B	B	B	△2	
4	4	タイセイラナキラ	牝6	56	吉原	カネヒキリ	サンデー系	エプロス	ミスプロ系	C	A	A	B	B	B	△3	
5	5	アンサンブルライフ	牡6	58	岡部	アジュディケーティング	ノーザン系	Dancing Brave	ノーザン系	B	B	A	B	B	A	▲	
6	6	ヒラボクプリンス	牡9	58	笹川	ストラヴィンスキー	ノーザン系	ダンスインザダーク	サンデー系	C	B	C	B	C	C		
	7	ワンパーセント	牡6	58	左海	トーセンブライト	ロベルト系	スペシャルウィーク	サンデー系	B	B	A	B	B	B	△1	
7	8	キングルアウ	牡7	54	高橋	キングカメハメハ	ミスプロ系	ウォーエンブレム	ミスプロ系	D	D	D	C	D	D		
	9	ミヤジマッキー	牡9	58	國分	スパイクユール	サンデー系	マルゼンスキー	ノーザン系	D	D	D	C	D	D		
8	10	ジョーオリオン	牡10	58	保園	ダイワメジャー	サンデー系	ジェイドロバリー	ミスプロ系	D	C	D	C	D	D		
	11	ソッサスプレイ	牡5	58	和田	コンデュエット	ナスルーラ系	スペシャルウィーク	サンデー系	C	C	C	B	C	C		

隊列図	見解	ラップタイム
タイセ ノブワ キタサ ワンパ アンサ ヒラボ トキノ ソッサ  キング ジョー ミヤジ  ハイペース	<p>出走馬11頭のうち4頭が地元・小久保厩舎所属。昨年のブラチナカップもそうだったが、今年もチーム・小久保の思惑を読むのが非常に重要な一戦になりそうだ。ちなみに小久保厩舎所属の4頭は、ノブワイルド 左海騎手→橋本騎手、アンサンブルライフ 繁田騎手→岡部騎手、ワンパーセント 左海騎手（継続）、ジョーオリオン 川島騎手→保園騎手という騎手起用。この辺りからでも色々と読み解くことができそうだ。それでは予想にいきましょう。</p> <p>本命は<b>キタサンミカツキ</b>でいいだろう。JRA時代は追い込み一辺倒のハマるかハマらないかの両極端なイメージだったが、地方に移籍してからは別馬になったかのような安定感を見せ、G1を除けば、地方では【6.3.3.3.0】と未だに馬券圏内を外していない。前走さきたま杯ではサンライズノヴァ、モーニンらに先着しての3着。地元馬相手ならさすがに負けられないだろう。ノブワイルドとタイセイラナキラは序盤からガンガンと飛ばしそうなので、その直後の内で脚を溜められそうな本馬には絶好の展開になるのではないかと。（以下省略）</p>	回顧   次走狙い馬

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	トキノエクセレント	○	かつては14年さきたま杯2着、16年オーバルスプリント5着とダートグレードでも上位争いした実績の持ち主。浦和コースで地元馬同士の重賞なら噛み合わせひとつでチャンスあり。		
2	2	キタサンミカツキ	◎	JRA時代は追い込み一辺倒のハマるかハマらないかの両極端なイメージだったが、地方に移籍してからは別馬になったかのような安定感を見せ、G1を除けば、地方では【6.3.3.3.0】と未だに馬券圏内を外していない。		
3	3	ノブワイルド	△2	行き切ることさえ出来れば、粘り込み濃厚だが、勝負度の低い橋本騎手に乗り替わり、タイセイラナキラが「是が非でもハナ」宣言。ワンパーセントのアシストをするためにも自分でレースを作りたいところだが、橋本騎手が吉原騎手との逃げ争いに勝てるか微妙。		
4	4	タイセイラナキラ	△3	このメンバーに入ってからどこまで通用するか微妙も、行き切ることさえ出来れば、馬券圏内に加わるチャンスは出てくるか。それでも直後にノブワイルド、キタサンミカツキがいるので決して楽な展開にはならないだろう。		
5	5	アンサンブルライフ	▲	近走はやや不振も、昨年はさきたま杯で3着、オーバルスプリントでも4着に健闘した馬。浦和1400mへの適性が高く、気性にやや難があるので戦績にムラがあるものの、この舞台で能力通りに走ってくれば、上位争いに加わってきていい。相手弱体化で人気落ちの今回は狙い目ははず。		
6	6	ヒラボクプリンス		展開は向くかもしれないが、浦和1400mへの適性、相手関係を考えると、健闘しても掲示板までが精いっぱいなのは。		
	7	ワンパーセント	△1	小久保厩舎の主戦・左海騎手が騎乗することからも一番期待されているはず。レースセンスが高く、大崩れなく走ってきそうだが、近走と比べると、メンバーレベルは格段に上がっており、相手強化でここまでの支持を集めるなら相手評価に留めるのがベストか。		
7	8	キングルアウ		2走前のB1B2の水芭蕉特別でも4着が精いっぱい。重賞では展開が向いたとしても掲示板に入ることすら難しいだろう。		
	9	ミヤジマッキー		ニケタ着順が続き、使えるレースにただ使っているような状況。回ってくるだけで終わるだろう。		
8	10	ジョーオリオン		ピークを明らかに過ぎた。昨年のブラチナカップでも10頭立ての8着だった。今年も苦戦必至だろう。		
	11	ソッサスブレイ		前走皇月盃は得意の船橋1700mで相手関係にも恵まれていた。昨年の浦和1400mで行われたゴールドカップでは7着に敗退。コース替わり、相手強化を考えると、手を出しづらい。		